

NECの新型インフルエンザ対策について

～従業員等への感染拡大防止、事業場の機能維持の観点から～

2008年 9月10日

NEC事業支援部
勤労マネージャー 福地 丈晴

目次

NECのご紹介

1. 事業運営への影響
2. NECの事業場における対応
3. 在宅勤務(二つのウィルスへの対応)

NECのご紹介

U
U can change.

プロフィール

商号: 日本電気株式会社 (英文: **NEC Corporation**)

本社: 東京都港区芝五丁目7番1号

創立: **1899年**(明治**32年**) **7月17日**

取締役 会長: 佐々木 元

代表取締役 執行役員社長: 矢野 薫

資本金: **3,379億円**(平成**20年**5月末現在)

売上高: 平成**18年度**実績 単独 **2兆2,108億円**

連結 **4兆6,526億円**

平成**19年度**実績 単独 **2兆3,526億円**

連結 **4兆6,172億円**



佐々木 元



矢野 薫

グループ主要事業: IT/NWソリューション事業

モバイル/パーソナルソリューション事業

エレクトロニクス事業 (半導体ソリューション、
およびその他デバイス事業)

従業員数: < 単独 > **23,126名**(平成**20年**3月末現在)

< 連結 > **152,922名**(平成**20年**3月末現在)

会社数: < 連結子会社 > **334社**(平成**20年**3月末現在)

業績は全て日本基準

事業領域と主な商品・サービス

IT / ネットワークソリューション事業

ITサービス / SI



ITプラットフォーム



ネットワークシステム



社会インフラ



モバイル / パーソナルソリューション事業

パーソナルソリューション



モバイルターミナル



半導体



電子部品その他

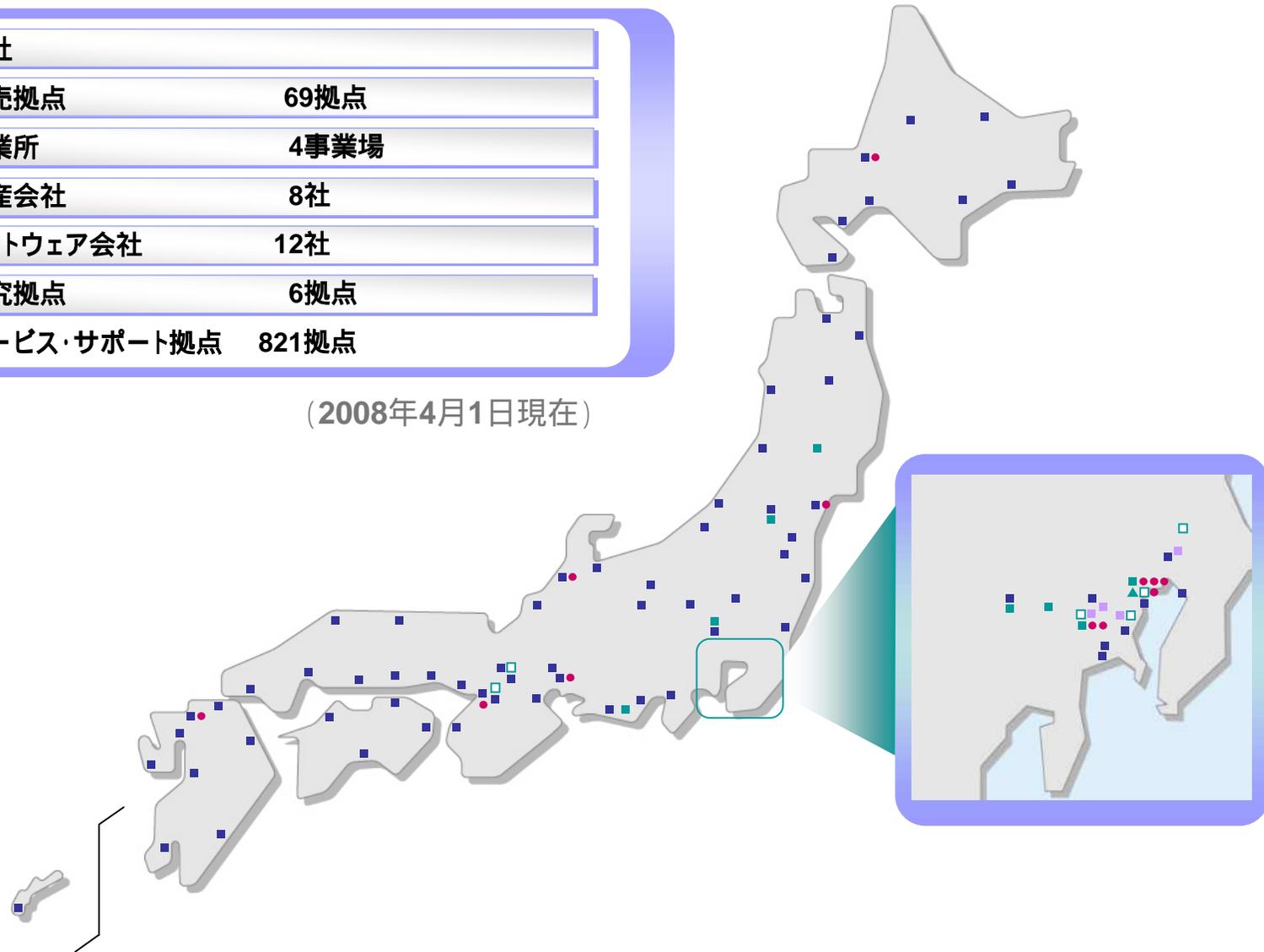


エレクトロニクスデバイス事業

国内拠点

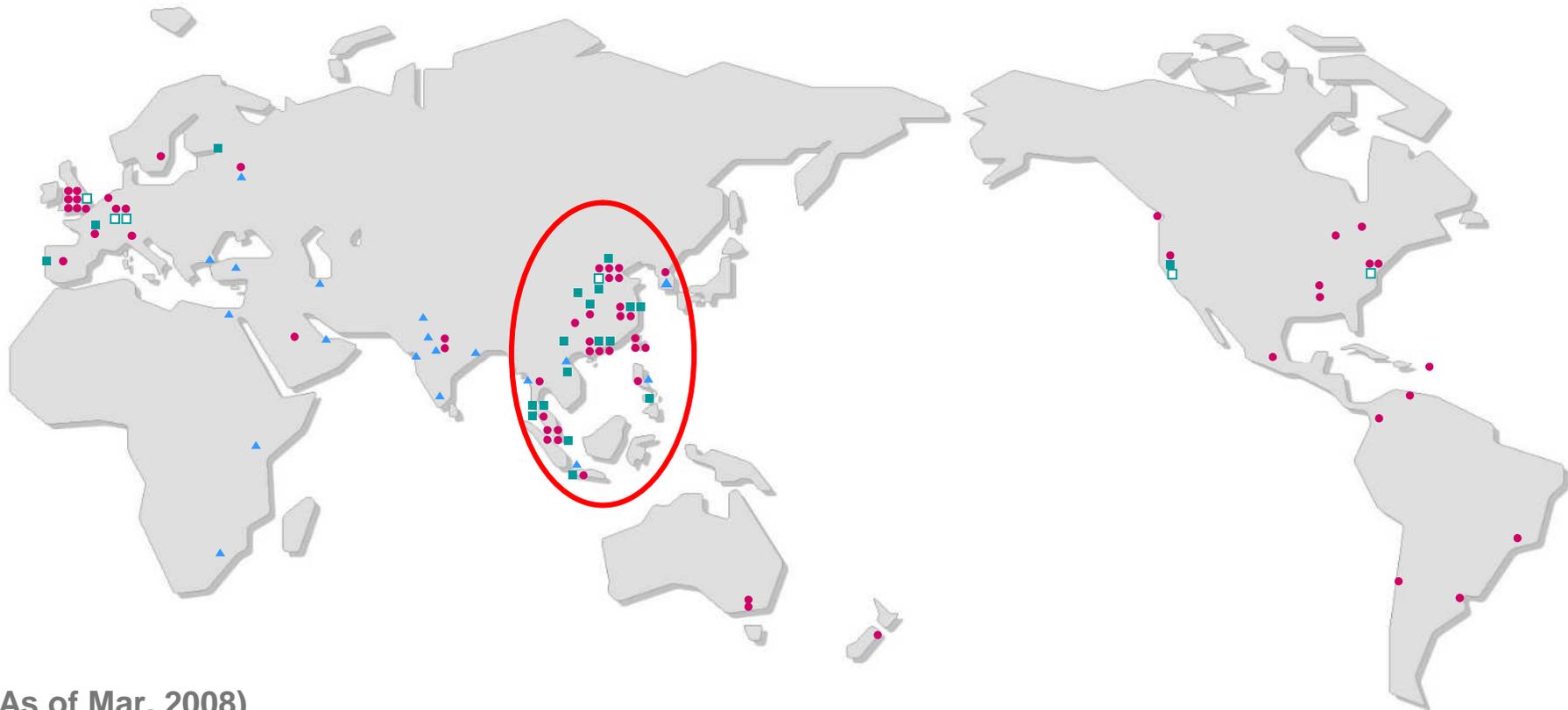
▲ 本社	
■ 販売拠点	69拠点
■ 事業所	4事業場
■ 生産会社	8社
● ソフトウェア会社	12社
□ 研究拠点	6拠点
サービス・サポート拠点	821拠点

(2008年4月1日現在)



海外拠点

■ Manufacturing affiliate	16	in 8 countries
■ Plants	16	in 8 countries
● Marketing & Service affiliate	62	in 29 countries
▲ Liaison Offices	19	in 16 countries
□ Laboratories	6	in 4 countries



(As of Mar, 2008)

1. 事業運営への影響

パンデミック期に予想される状況(対策検討の前提事項)

1. 出勤率

- 流行期の2ヶ月間は出勤率は6割程度となり、これが年に2～3回、2年間続く。
(厚生労働省の予想で本人・家族の罹患で欠勤率が最大4割)
- 社内での感染拡大防止対策(事業場ごとの出勤停止等)により、2週間程度、職場での業務遂行が不可能になる場合もある。
- ただし、行政措置(事業活動の自粛要請・出勤停止勧告等)によっては、流行期間中(2ヶ月間)、職場での業務遂行が不可能になる場合もある。

2. 社会インフラ

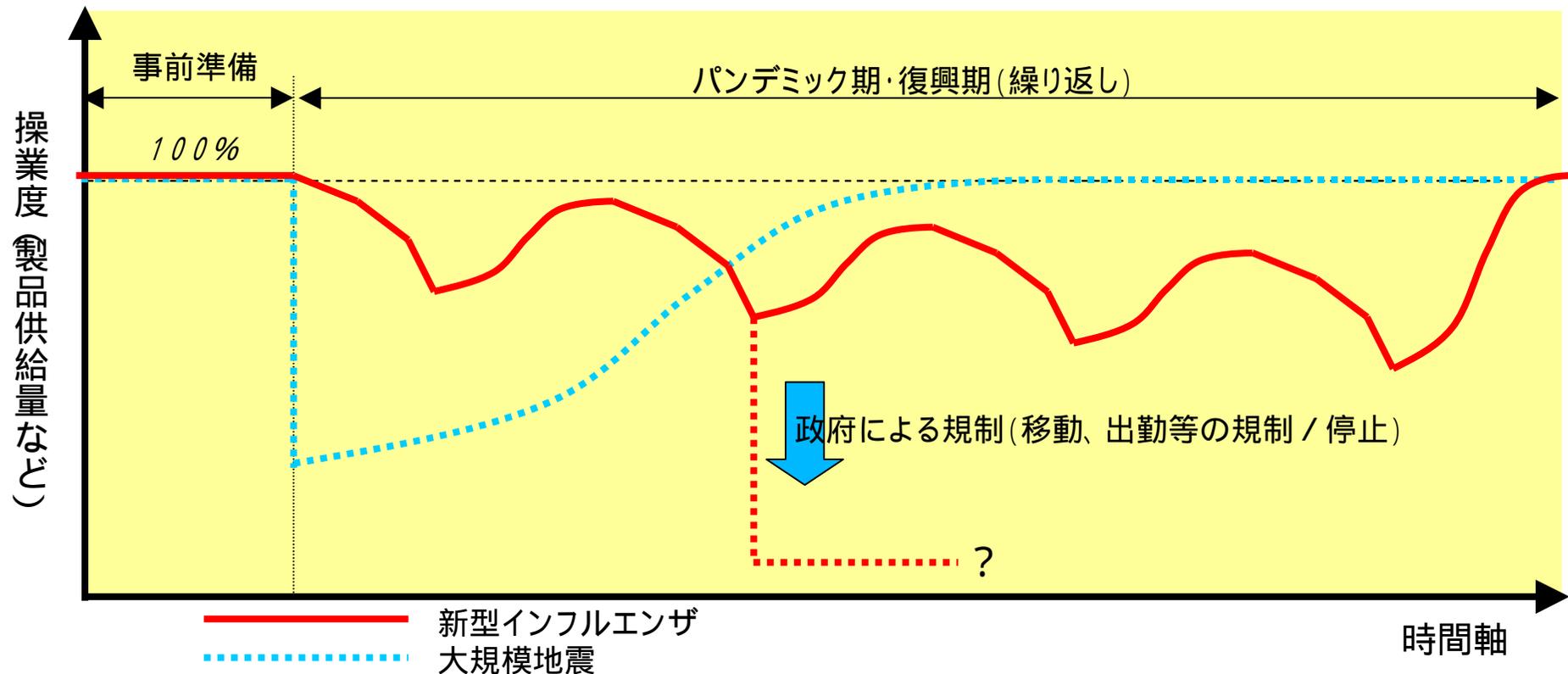
- 電気・ガス・水道・通信は、政府が極力利用できるように維持するため、大きな支障はない。(ただし保守要員不足で一部利用できないこともある。)
- 交通機関は間引き運転(東京都)

3. その他

- 国が規定する「新型インフルエンザパンデミック時にも事業継続する事業」については、関係機関との連携により、事業継続する必要がある。
(治安維持、ライフライン関係、国又は地方公共団体の危機管理に携わる者、国民の最低限の生活維持のための情報提供に携わる者、輸送)

新型インフルエンザと大規模地震との比較

- 出勤率の低下
厚生労働省の予測
罹患者数 全人口の約25% 家族の看病等を含めると最大4割が欠勤
流行の持続 2ヶ月周期で2年間
- 行政措置(国、東京都)
事業活動の自粛要請・出勤停止勧告等



2. NECの対応

検討課題

1. 経営基盤に関する検討課題

《検討課題》

《主管部門》

- ・危機管理体制(コーポレートスタッフ)の構築
- ・情報収集および周知方法の確立
- ・感染予防の事前措置(従業員啓発・物品備蓄)
- ・海外勤務者対応
- ・事業場維持(インフラ・警備)、閉鎖時対応
- ・在宅勤務制度
- ・自宅待機時の給与等取扱い
- ・ITインフラの維持
- ・在宅勤務システム
- ・セキュリティの確保策
- ・広報、従業員等への情報提供

スタッフ

2. 事業継続のための検討課題

- ・新型インフルエンザ流行時の業務運営体制の確立(BU)
- ・各BUの事業に関わる事業継続計画の策定

BU

検討体制

情報収集および
危機管理体制
確立WT

従業員感染
防止対応WT

海外勤務者
対応WT

事業場維持・
閉鎖時対応WT

在宅勤務制度
検討WT

広報・従業員等
への情報提供
対応WT

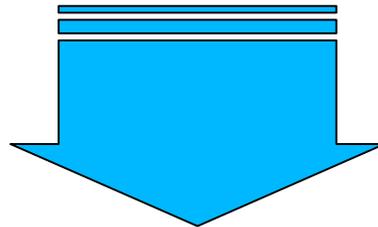
目的

1. 感染拡大防止

- ◆ 従業員への感染拡大防止
- ◆ 事業場内での感染拡大防止
- ◆ 従業員・事業場勤務者家族の感染拡大防止支援

2. B C P 支援

- ◆ 事業場運営維持



パンデミックの阻止は困難だが、

- ・ピークを下げる
- ・時期を遅らせる

これにより、被害(感染者、死亡者)を低減し、ワクチン製造の時間を稼ぐ。

レベル別の対応策概要

WHOの警報フェーズを元に4段階のレベルを設定し、レベルごとに対策を講じる。

レベル		従業員の感染リスク(国内)	対策
レベル1 (海外発生) 第一次警戒レベル (フェーズ4直前～ フェーズ4A)	事前準備	海外発生	・通常のインフルエンザ予防の啓発 ・必要備品の備蓄 ・マニュアルの配布 ・説明会の実施
		水際対策 早期対応	国内発生 海外感染地域からの訪問者による感染
国内発生 国内・海外感染地域からの訪問者による感染	国内・海外感染地域からの訪問者による感染		・対策本部の設置 ・検温の開始 ・入場制限(外部からの訪問、原則禁止)
	事業場発生 国内感染地域への出張等による感染		・事業場内の移動制限 ・事業場内の共用施設閉鎖
レベル3 (事業場発生) 第一次発動レベル (フェーズ4B ～フェーズ6A)	事業場発生	事業場内での感染	・発生事業場の一時閉鎖 ・在宅勤務
レベル4 (パンデミック) 第二次発動レベル (フェーズ6B パンデミック期)		日常生活での感染	・出勤率低下状態での事業場機能維持
	会社の維持		

事前準備

対策の重点 = 事前準備・水際対策

-個人、家庭での予防措置の促進

- 通常のインフルエンザ予防の啓発(通知文、掲示)
- 個人・家庭用マニュアルの配布(従業員、事業場勤務者)
 - 手洗い、咳エチケットの啓発の強化
 - 面談方法の改善(お互い正面に入らない。なるべく距離を保つ。)
 - 通常のインフルエンザ予防接種徹底
- 説明会の実施

-職場での予防措置の促進、事業場内での感染者発生時の行動の周知徹底

- 職場管理用マニュアルの配布(管理職)
- 説明会の実施

-必要備品の備蓄

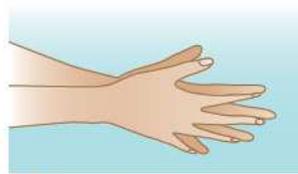
- 電子体温計を職場単位に配備
- その他
 - 従業員用として、福利厚生子会社を通じたマスク・薬用石鹸等の廉価販売を実施

上手な手洗いの仕方・咳エチケット

上手な手洗いの仕方



1 流水で手を濡らし
せっけんを適量つける。



2 手のひらと手の背を洗う。



3 指の間を洗う。



4 親指も忘れずに洗う。



5 指先や爪の間を洗う。



6 手首を洗う。



7 流水中でよく洗い流し
水分をふき取る。



● 汚れが残しやすいところ

感染症予防のため手洗いを励行しましょう！

厚生労働省

咳エチケット

ひろげよう



ひろげるな インフルエンザ

マスクをせずに咳やくしゃみをする、ウイルスが2mから3m
飛ぶと言われています。そこで必要なのが「咳エチケット」

「咳エチケット」とは？

- 咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りのひとから顔をそむけましょう。
 - 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。
 - 症状のある人はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。
- その他、インフルエンザ予防のためにできること
- ◆ 外出後のうがいや手洗いを日常的に行いましょう。
 - ◆ 十分に栄養や睡眠をとり、体力や抵抗力を高め、体調管理をしましょう。

インフルエンザホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/index.html>

インフルエンザ等 感染症相談窓口 TEL.03-3200-6784
NPO法人 バイオメディカルサイエンス研究会 E-mail influt@ngo-bmsa.org FAX.03-3200-5209

お問い合わせ先

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省ホームページアドレス
<http://www.mhlw.go.jp>

国立感染症研究所・感染症情報センター
ホームページアドレス
<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>

日本医師会感染症危機管理対策室
日本医師会ホームページアドレス
<http://www.med.or.jp>

新型インフルエンザとは？

世界的流行が心配されている新型インフルエンザに対し、政府は行動計画を定めて、発生に備えた対応を行っています。詳しくは、厚生労働省HP「新型インフルエンザ対策関連情報」まで。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>

レベル1(海外発生) - 第一次警戒レベル

対策の重点 = 事前準備・水際対策

- 海外感染地域からの訪問者等の入場制限
 - 原則として、電話、メール、テレビ会議等、対面型以外の方法とする。
 - 重要顧客等やむをえない場合は、応接室等来客ゾーンへの必要最低限の時間の入場のみとし、一般執務フロアへの入場は禁止する。その際は、顧客等に対して、会社指定のマスクの装着を義務化し、応対者も同様とする。
- 通常のインフルエンザ予防の啓発強化(掲示増加、放送、チラシ配布)
 - 手洗い、咳エチケットの啓発の強化
 - 面談方法の改善(お互い正面に入らない。なるべく距離(2m)を保つ。)
 - 通常のインフルエンザ予防接種徹底

レベル2 (国内発生) - 第二次警戒レベル

対策の重点 = 水際対策・早期対応

-早期発見のための対応(詳細は次ページ以降)

- 検温、勤務中の発熱対応

-職場での勤務管理の徹底

- 特に休暇取得者、欠勤者等の理由確認(自社社員以外も含めて)

-外部から訪問者の入場を制限(原則禁止)する。

-事業場内の移動制限

- 大人数(特に複数の部署にまたがるもの)の会議・教育・セミナーの原則禁止。
- 事業場内の勤務場所以外の執務フロアへの移動の原則禁止。

-事業場内の共用施設利用制限

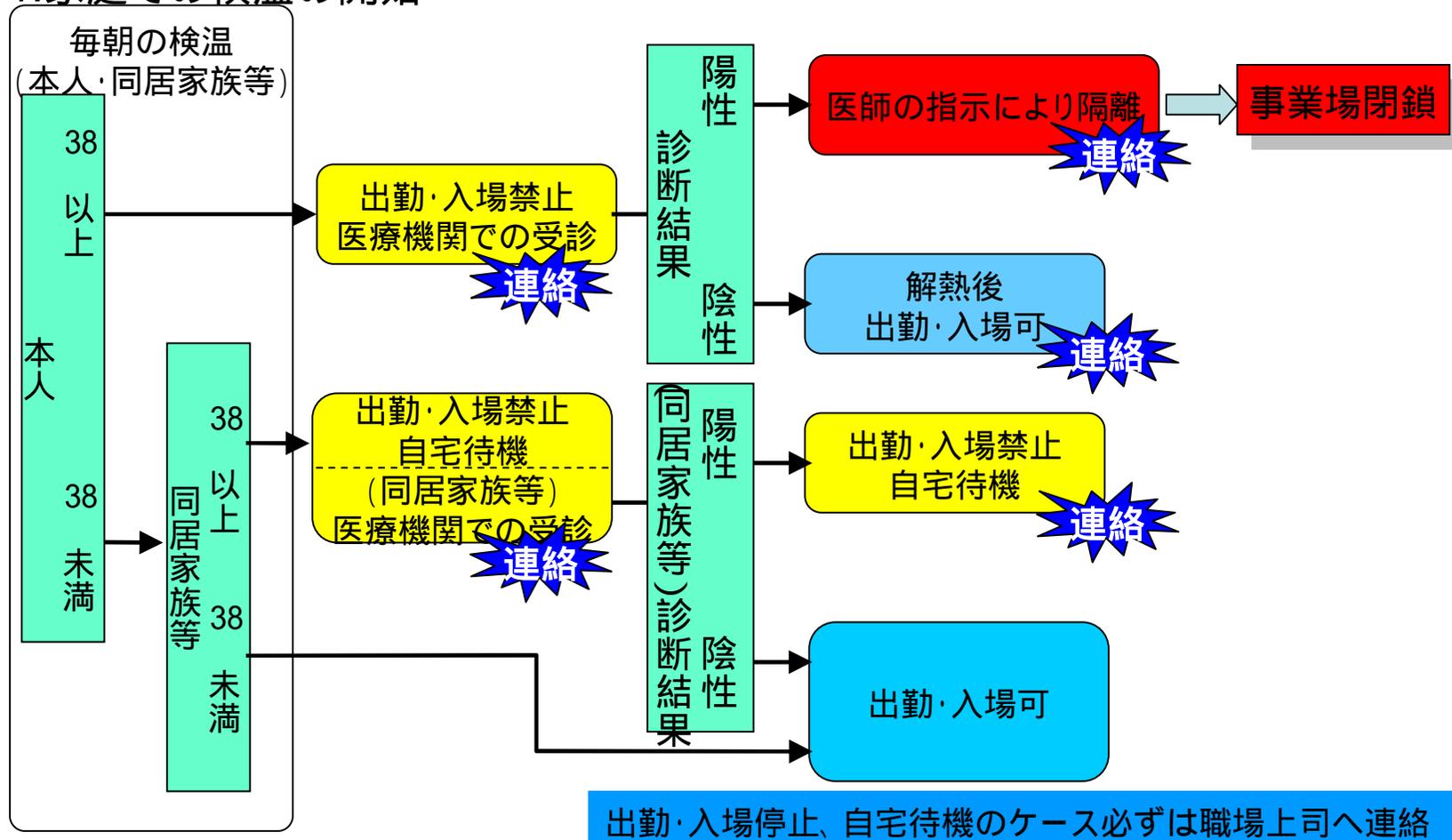
- 会議室、応接室を原則すべて閉鎖する。
- 従業員クラブを閉鎖する。
- 休憩時間の分散により、食堂・売店への人の集中を緩和する。
(状況によっては閉鎖。)
- 売店では食事以外の販売をすべて中止する。

早期発見のための対応

インフルエンザの症状は発熱だけではないが、最もわかりやすい基準であるため、検温により感染の早期発見 = 感染拡大の防止を図る。

熱にかかわらず、体調不良時には出勤は控えることが望ましい。

1. 家庭での検温の開始



One NEC 事業継続支援システムの活用

One NEC事業継続支援システム

本システムを利用する前に
以下のリンクをクリックし、災害時行動に関する学習
• 災害時行動に関する学習を行う

操作マニュアル
システムの操作に関するマニュアルは、こちらからダウンロードして、対象をファイルに保存
(※)リンクを右クリックして、「対象をファイルに保存」

1. 総合安否確認システム操作マニュアル
 - 一般利用者(マネージャ以上)用 (PDF形式)
 - 一般利用者(社員以下)用 (PDF形式)
2. 災害時連絡ルートマップ操作マニュアル
 - 一般利用者用 (PDF形式)

サイトの閲覧制限

学習状況集計

安否情報登録 (本人)

安否情報登録 (代理)

安否情報登録 (一括)

安否情報出力

安否情報検索

PJメンバ安否情報検索

安否情報集計 (組織)

安否情報集計 (個人)

PJ情報メンテナンス

災害情報登録

災害情報更新

安否確認対象者設定

利用者権限メンテナンス

データ連携状況

ページが表示されました

イントラネット

11:22

項目	内容	確認日時
会社名	日本電気	-
組織名	事業支援部	-
姓名		-
本人安否状況	無事	2008-08-22 11:22
出勤可否	不可能	-
出勤不可能の理由	家族死亡/負傷	2008-08-22 11:22
同居家族安否状況	全員無事	2008-08-22 11:22
住居被害状況	無事	2008-08-22 11:22
連絡時の場所	-	-
自宅周辺の被害状況	-	-
メッセージ	家内が発熱しているため。	2008-08-22 11:22
最新情報登録者		-
登録日時	2008-08-22 11:22	-

早期発見のための対応

2.勤務中に発熱等の症状が発生した場合の対応

朝の検温では異常がなかったが、勤務中に発熱等の症状が発生した場合。

- 職場では、該当者を移動させず、かつ、接触を避ける。(ただし、必要以上に隔離するなど、本人に不安感を与えないように十分ケアすること。)
- 検温の結果、38度以上の熱がある場合は、必ず退社させ、外部医療機関での受診を指示する。38度未満の場合も、体調不良の場合は、極力退社させる。(職場での検温用に体温計を用意)
- 帰宅時は事業場内における最短ルートでの退場を徹底する。
- 該当者は3.の条件を満たすまで入場を禁止。療養につとめる。

3.症状回復の場合の入場禁止措置解除

- 他者への感染の可能性がないこと(新型インフルエンザでない場合も含む)を医師による診断で確認すること。
- 出社する際には、事前に職場上司に連絡すること。
- 職場上司は、事業場管理部門へ連絡すること。

レベル3 (事業場内発生) - 第一次発動レベル

対策の重点 = 水際対策・早期対応

-事業場の閉鎖

- 事業場内で新型インフルエンザの感染者が確認された場合、パンデミックを阻止するために事業場を閉鎖する。
 - 閉鎖単位
 - »事業場ごと
 - 閉鎖期間
 - »2週間(潜伏期間(3～7日間)、感染期間(発症前1日～感染後7日間))
- 閉鎖期間中は、すべての入場口を閉鎖し、警備および施設管理要員のみの勤務とする。

レベル4 (パンデミック期) - 第二次発動レベル

対策の重点 = 会社の維持(事業継続)

-事業場の限定運用

- 出勤率低下時は、警備・施設管理要員の確保状況により、一部運用を制限する。

例) 警備 入場口の限定、巡回等の限定

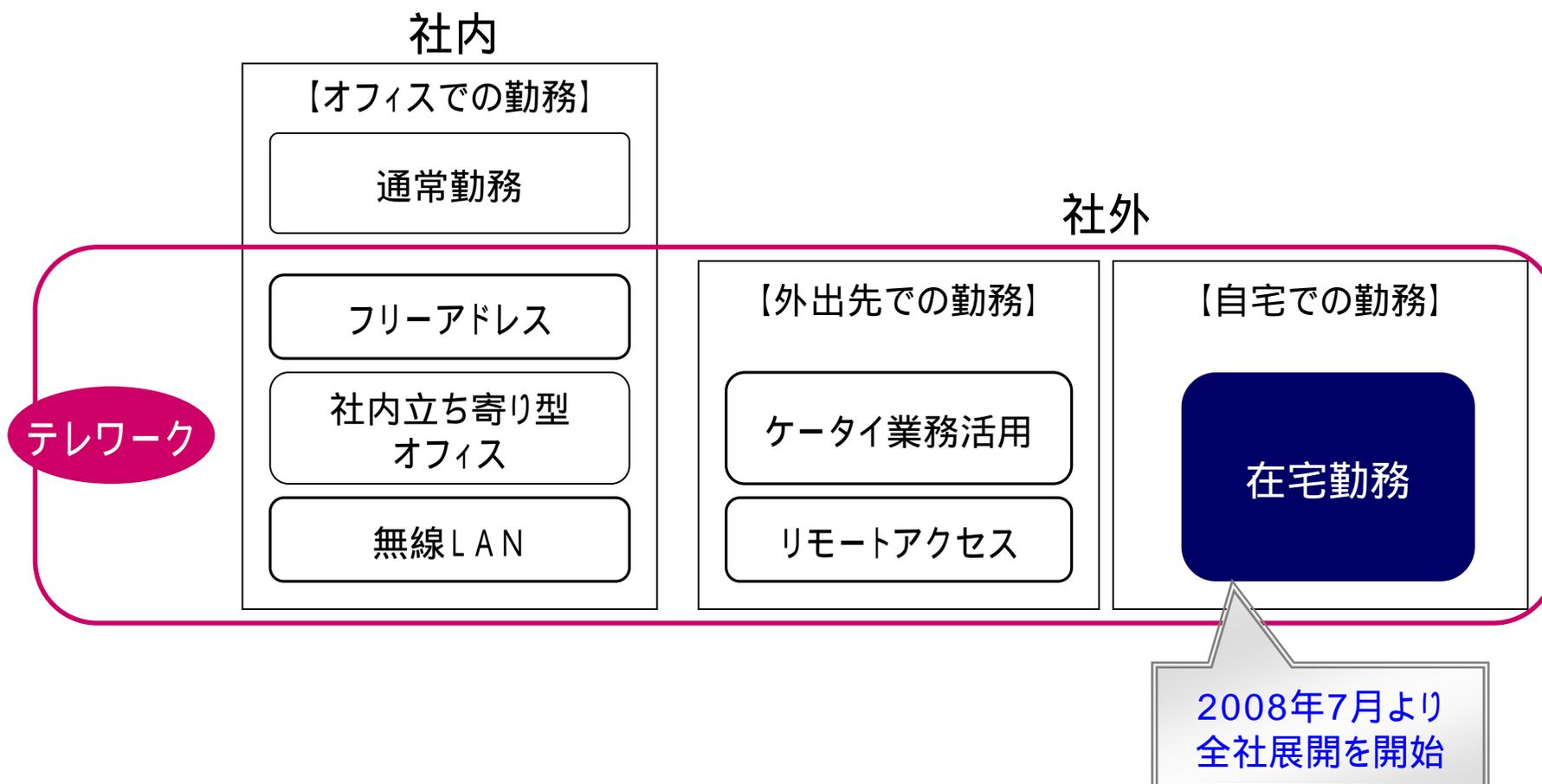
施設管理 補修工事・レイアウト工事等の先送り

厚生施設 食堂の休止 または 提供メニューの限定

3. 在宅勤務(二つのウィルスへの対応)

テレワーク推進と在宅勤務の全社拡大

- ・NECではテレワークを「どこにいてもオフィスと同じように業務を遂行し、メンバと協働できる働き方」と定義し、セキュリティに十分な配慮を行いながら、これを実現するためのIT環境整備を進めている。
- ・今般在宅勤務を全社に拡大することでテレワークをさらに推進する。



在宅勤務への対応 - NECのテレワーク



NECの新テレワーク=協働

- ◆どこにいても **オフィスと同じように** 業務を遂行
- ◆完全在宅勤務ではなく、**状況に応じて使い分ける**



場所によらず、オフィスと同じように協働、管理できるための仕組みを備える

- どこでも最適な場所で業務に集中(場所の裁量性)
- オフィス、外出先と使い分けるワークスタイル(完全在宅勤務ではない)
- コラボレーション(常につながる環境)を重視

テレワークの協働環境

- ◆場所によらず**オフィスと同じように協働、管理**
 - オフィス内と同じように電話が使える(内線電話)
 - いつでも必要な時には顔を見ながら会議を行える(Web会議)
 - お互いの状況がわかる(プレゼンス)



在宅勤務の活用事例

「リモートアクセス」と「シンクライアントシステム」を活用し、情報セキュリティに配慮しつつ、自宅でもオフィスと同じように業務を行うことが可能

客先への外出・出張の前後



【対象】 営業・SE

【活用事例】 自宅から会社に寄らず客先へ直行することにより時間の有効活用が可能となる。

集中作業時



【活用事例】 集中することにより生産性が高まる資料を自室に閉じこもり作成する。
(ただしこの場合でも必要に応じて face to face コミュニケーションが行える)

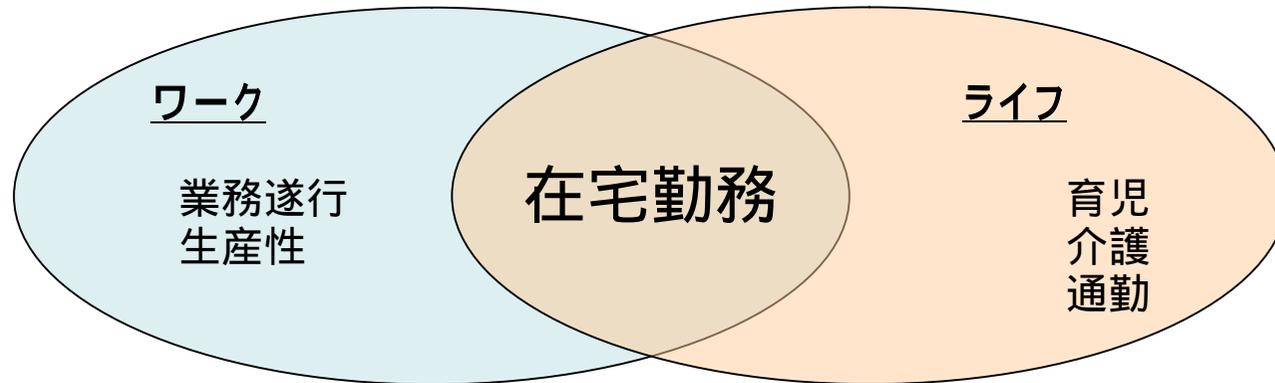
家族看護(急病時)



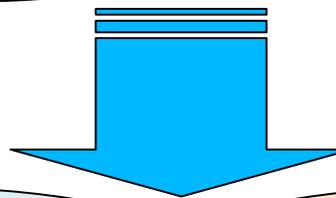
【活用事例】 子供の急病等により早退しなければならない場合に、帰宅後、子供の看護をしながら在宅勤務を行う。

新型インフルエンザ対策としての在宅勤務

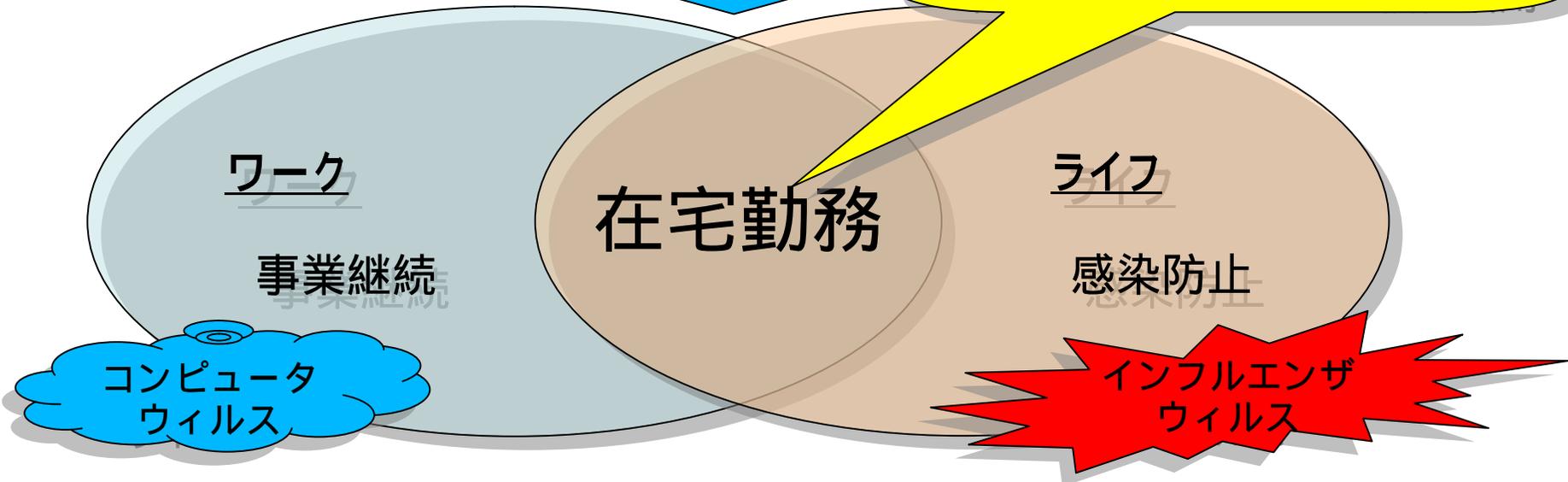
平時



新型インフルエンザ対策

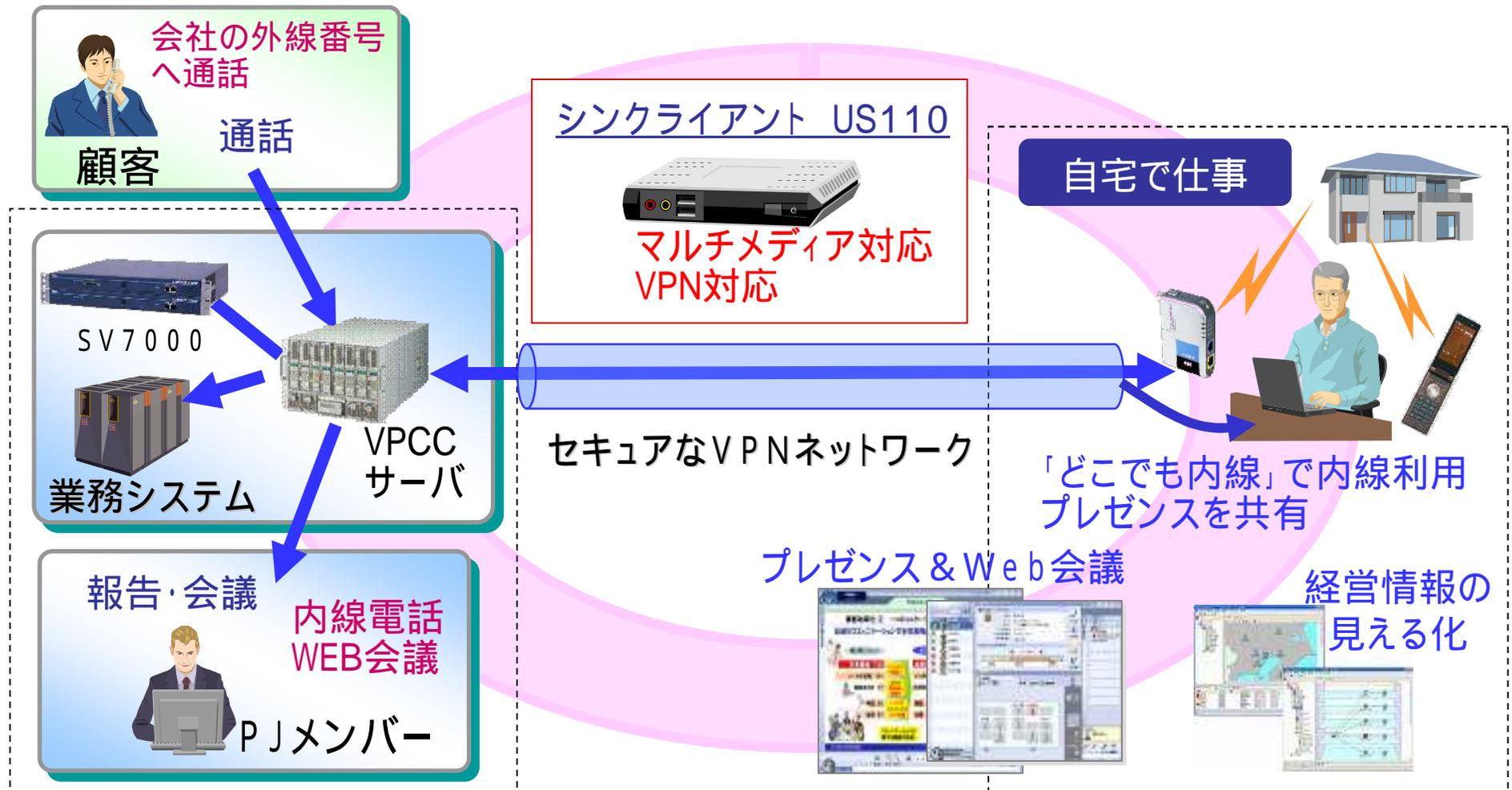


シンククライアント在宅勤務を
感染防止と事業継続の
「両立の解」の一つとして積極活用



在宅勤務への対応 - UNIVERGEシンククライアント在宅勤務ソリューション

社内情報を持出すことなく、自宅で業務
オフィスと同様に状況を把握し、その場から指示・管理



最後に

「パンデミックの罠」に陥らないこと

「パンデミックの罠」

=いかなる対策を講じても新型インフルエンザパンデミックは起こり、
対策自体が無駄に見えてくること

パンデミックは間違いなくやってくる(前提で)、国、自治体、企業、個人がそれぞれ感染拡大防止の行動を取ることによって、「時間」を稼ぐことができる。これによってワクチン等の製造に猶予が生まれ、パンデミックの規模を小さくすることやピークを低くすることは可能である。

対策を検討する際は、「パンデミックの罠」に陥らず、一人ひとり、一社一社の努力が新型インフルエンザに打ち勝つためには重要であることを理解しておく必要がある。

ご清聴ありがとうございました

Empowered by Innovation

NEC